


取組の概要

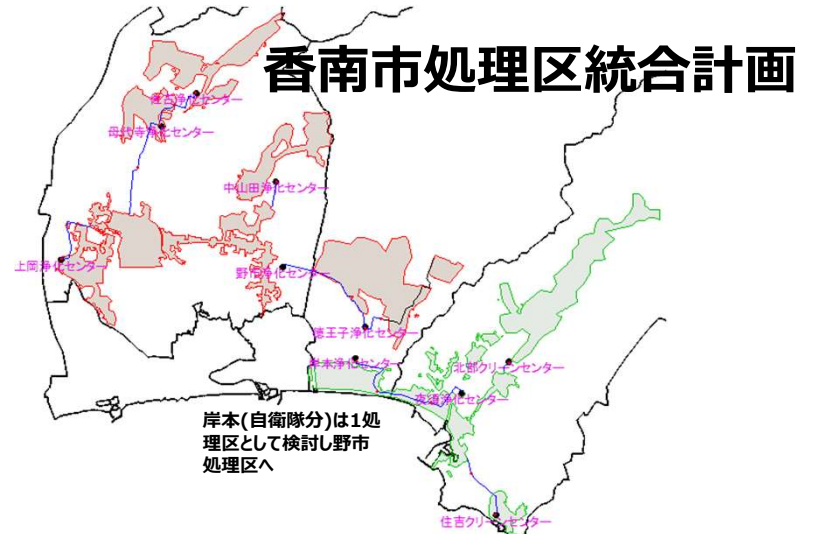
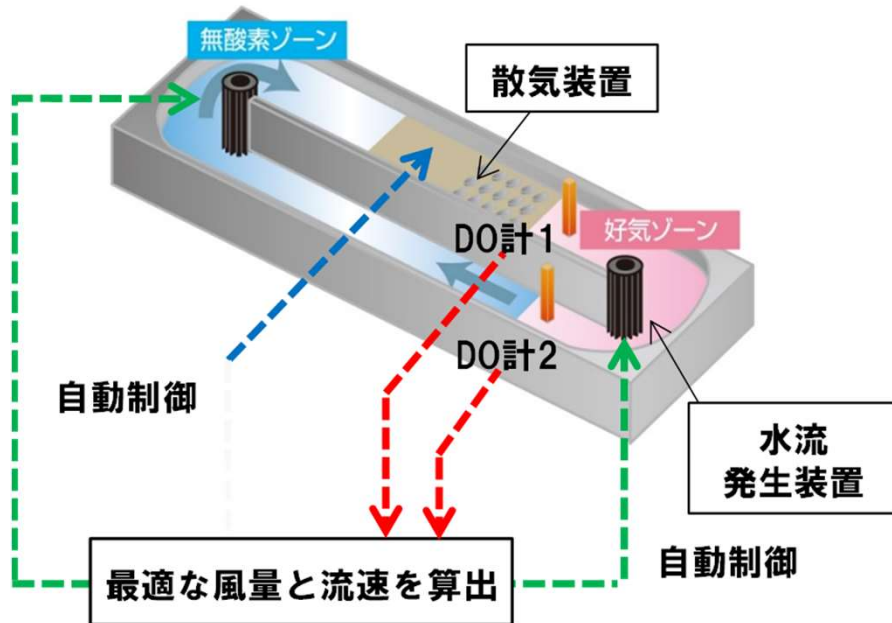
8ℓの装置 高知大学 基礎研究 (H12～高知大学)

300ℓのパイロット装置
高知大学・前澤工業 (H16～高須浄化センター)

1750m³の処理場
(H21～野市浄化センター)



実証試験
(前澤工業・高知大学・高知県
香南市・日本下水道事業団)



香南市汚水処理の持続性向上のため、処理区統合計画を策定 (11→2カ所)。実現のために本技術を野市浄化センター、夜須浄化センターに導入

取組の特長およびSDGs達成への貢献について

● SDGs 6 達成に貢献する、産官学による20年間のストーリー性ある取組

産官学による技術開発



地域課題解決への貢献



全国への普及展開

8 Lの装置 高知大学 基礎研究 (H12~高知大学)



300 Lのパイロット装置

高知大学・前澤工業 (H16~高須浄化センター)



1750m³の処理場

(H21~野市浄化センター)



実証試験

(前澤工業・高知大学・高知県
香南市・日本下水道事業団)



香南市夜須浄化センター導入



糸魚川市青海浄化センター導入

- **包摂性**：『人口減少が進む地方都市において「誰一人取り残すことなく」汚水処理施設を普及させ、その持続性を向上させる』という社会課題の解決を目指し、産官学の協働による汚水処理新技術の開発と全国への普及展開に向けた取組を行った。

- **統合性**：人口減少が進む地方都市で汚水処理の持続性を向上させるには、複数の社会課題を同時に解決するコベネフィットな技術の開発と社会実装が重要となる。本取組で開発した「オキシデーションディッチ法における二点DO制御システム」は、処理能力増強、処理コスト削減、エネルギー消費・温室効果ガス排出削減を同時に実現する新技術であり、SDGs目標6, 7, 11, 13の達成に資する統合性のある取組。